
憂鬱な学園生活～合気のドタバタ学園生活～

天空 翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

憂鬱な学園生活〜合気のドタバタ学園生活〜

【Nコード】

N4366V

【作者名】

天空 翼

【あらすじ】

ある日ロックマンエグゼの世界から来た火上合気達が入学した学校は、なんと異世界からの選ばれし者達の中から自然の管理者を決めるための学校だった！不満タラタラながら入学した合気達を待っていたのは個性的なキャラクターとおくる学園生活だったのだがそれはいろいろと憂鬱な学園生活で…

一幕 キャラ紹介って何か面倒だ

ここは時空の狭間にあるパラレル学園。

この学園はさまざまな世界、つまり異世界から集められた選ばれし者達を教育し、自然の管理者を育てる事を目的とした学園なのだ。そしてその学園の1年Z組の教室。

ここであるとある少女が大空に向かい力いっぱい叫んでいた。

ハルヒ

「東中&北校出身涼宮ハルヒ！ただの人間には興味ありません！！この中にハルヒファン、ロックマンファン、遊戯王ファン、ベイブレファンなどがいたらこの小説を読みなさい！！以上！！」

合気

（いきなりなんか叫んだ！？）

心の中でツツコミをいれたこの少年は火^{かじょう}上^{あき}合気。

この小説の主人公である小学六年生である。

熱斗

「てわけで、学園コメディ憂鬱な学園生活のリメイク版『憂鬱な学園生活』合気のドタバタ学園生活』を始めるぜ！」

炎山

「どついうわけだ。」

炎山がツツコミをいれる。

その瞬間教室の窓ガラスが割れ、二人の少年が飛び込んでくる。

銀河

「いくぞキョウヤ！！ペガシス！銀河新星！！」
ギャラクシーノヴァ

ガラスを割ったのはベイバトルをしていた銀河とキョウヤだった。彼らはいつも顔を合わせるとバトルバトルの連続で喧嘩もする。

寮の部屋も一緒に何をするときも一緒。

普段は一匹狼のキョウヤに銀河がかまうことで周りからはこの二人はホモのカップルなのでは？と誤解されている。

合気

「窓割れたぞ！？どーすんだよこれ！？」

銀河・キョウヤ

「「あ……」」

合気

「あ……じゃねえだろ！このホモカップルが！」

銀河・キョウヤ

「「ホモカップルじゃねえ！！」」

良守

「あゝあ、しゃあねえ、俺が直しといてやるよ。」

隣のクラスの墨村良守が修復術を使い窓を直し始めた。

銀河

「サンキュー良森！後でジュースおごるぜ！」

そんな日常の中、教室の扉が開き、気の抜けた声がした。

銀八

「朝っぱらからうるせえなあ。てめえらはあれかあ？新作のお菓子買って喜んでる子供ですかあコノヤロー。」

死んだ魚の目のような天然パーマに白衣の男。このクラスの担任、坂田銀八がだるそうな声で言った。

キラ

「僕らまだ子供ですよ。」

銀八はそんな少年、キラ・ヤマトのツツコミを無視して出席を取り始めた。

銀八

「出演漫画順で出席取るからな。まずオリキャラからだ。本作オリキャラであり主人公の火上合気。郡司侑輝さんの作品『スマブラ&仮面ライダーズ+α』から五代友樹、リンク・ヤマト。」

合気

「はい！」

友樹

「はい！」

リンク

「はい！」

銀八

「次、ロックマンエグゼから光熱斗、伊集院炎山、ロックマン、ブ

ルース。
」

熱斗

「はい！」

炎山

「はい。」

ロックマン

「はい！」

ブルース

「はい。」

銀八

「次は…涼宮ハルヒの憂鬱から涼宮ハルヒ。」

ハルヒ

「はい！！！」

銀八

「機動戦士ガンダムSEEDからキラ・ヤマト、アスラン・ザラ。」

キラ

「はい。」

アスラン

「はい。」

銀八

「次はあつと、遊戯王シリーズから武藤遊戯、アテム、遊城十代、ヨハン・アンデルセン、不動遊星。」

遊戯

「はい！」

アテム

「はい。」

十代

「はい！」

ヨハン

「はい！」

遊星

「はい。」

ちなみに十代とヨハン。
この二人はみんなに双子と誤解されている。

銀八

「次はバカテスから吉井明久、坂本雄二、島田美波。」

雄二

「はい。」

明久・美波

「「はい」」

この二人はみんながみんな認識している正真正銘のカップルである。

銀八

「リボンから沢田綱吉、獄寺隼人。」

ツナ

「はい！」

獄寺

「はい。」

銀八

「次い、メタルファイトベイブレードから鋼銀河、盾神キョウヤ。」

銀河

「はい！」

キョウヤ

「ああ。」

銀八

「今日も仲がいいホモカップル。」

銀河・キョウヤ

「「ホモカップルじゃねえ!!!」」

ツッコミも一緒な二人。

銀八

「次は銀魂から新八、神楽、土方、近藤、沖田。」

新八

「はい。」

神楽

「はいアル！」

土方

「うーす。」

近藤

「はーい！」

沖田

「はい。」

銀八

「次、コードギアスからルルーシュ。最後にバトスピシリーズから馬神トツパに馬神ダン。」

ルルーシュ

「ああ。」

バシン

「おう！」

ダン

「はい！！」

銀八

「それじゃあ次回から本編開始だな。ちなみに学級委員長はルルーシュと不動遊星、火上合気だ。」

合気

「どの小説でもルルーシュが学級委員長だな。てか学級委員長三人もいんのかよ!？」

合気のツツコミが最後に入った。

一幕 キャラ紹介って何か面倒だ（後書き）

やっぱり思い入れがありましたのでまたやり始めました。

二幕 転校生は大体数人で来ることが多い

銀八

「転校生紹介するぞデメエら。」

全員

「「「早いな!?!?!」」」

銀八

「仕方ねえだろう? 作者がはまった漫画がいくつかあるんだからよ。てなわけで、適当に自己紹介してくれよ」「させるかあああああああ!?!?!?!?!」「ガフウ!?!」

合気、炎山、新八のツツコミボディブローが決まった。
誰に? 銀八に。

銀八

「な、な、何しやがる!?! お前ら!?!」

合気

「ヘッ、もう前作のようなことはさせねえぞ?」

炎山

「ちゃんと教師らしくしろマダオが。」

新八

「炎山君、ツツコミできたんだ...」

上から銀八、合気、炎山、新八である。

銀八

「だからってボディブローはないだろうが!!そんな乱暴な子の言うことを聞くほど僕は馬鹿ではありません!」

合気

「へえ?ならこれが目に入らぬか!!」

合気の手にあつたのはジャンプ。

銀八

「ぬおおお!?!そ、それは!俺が100件も店を回って手に入れたジャンプ!?!」

ヨハン

「ジャンプ買うのに何でそんなに苦労してんだよ…(呆)」

ブルース

「炎山様。」

炎山

「ありがとうブルース。」

炎山は銀髪の男、ブルースからライターを受け取る。

合気

「ほらほらちゃんとしないとジャンプが燃えちまうぜ?大事な大事なジャンプが!」

銀八

「やる！ちゃんとやるからジャンプだけは！ジャンプだけは――
――！！！！！！」

合気

「よっし！じゃあちゃんとしろよ」

熱斗・ロックマン・遊戯・遊星

（（お、鬼だ！））

銀八

「ははっ、じゃあ入ってこーい……」

???

「あ、あの、大丈夫ですか？」

銀八

「ああ、大丈夫だよーははっ……」

真っ白な銀八に話しかける青い髪の少年。

合気

「ああ、そいつなんかいいから早いとこ自己紹介頼むわ。」

銀八

「ああ！？お前、俺にしろって言っただろお前！？」

合気

「炎山、ライター。」

銀八

「マジすんませんでしたあああああ！！！」

銀八は一瞬で頭を地面にすりつけ土下座した。

合気

「あれ？俺、何か謝られることしたっけ？」

全員

「「「いやいや、思いつきりやってじゃねえか！？！？」」」

合気

「ええー！？」

全員

「「「マジ驚いた顔すんな！！」」」

銀八

「頼んだよ、自己紹介…ははっ…じゃんぱーイマタステヤルカラ
ナー…」

熱斗・ロツクマン・遊戯・十代・ヨハン

「「「銀八先生が壊れたあああああああ！！？！？」」」

アスラン

「先生気を確かに！！」

？？？

「マジで大丈夫かよ…」

ハルヒ

二幕 転校生は大体数人で来ることが多い（後書き）

次回、ルルーシュの妹ナナリーに彼氏が！？

三幕 抹殺は他の人の迷惑にならないようにしろ！つーか、抹殺自体をするな！

合気

「る、ルルーシュ？」

ルルーシュ

「ズドーン」

朝、合気が教室に登校するとルルーシュが机に突っ伏してあたりに嫌な空気を撒き散らしていた。

アイチ

「る、ルルーシュさんどうしちゃったんだろう？」

ボッスン

「さあ？」

キョウヤ

「またナナリーのことでは何かあったんだろう…」

櫛

「ナナリー？」

説明しよう！ナナリーとはルルーシュの妹である！

櫛

「説明どうでもよくね？」

合気

「え？何だ？」

ルルーシュがなにやらぼそぼそと言いだめた。

合気

「銀河ー、わかるか？」

銀河

「うん。何々？」ナナリーに彼氏ができてしまった…』だってさ。
「

合気

「へえーそれだけ？だから？」

ルルーシュ

「それだけ？」

ルルーシュががばりと起き上がり机を叩いた。

ルルーシュ

「んだとゴラア！？ナナリーに彼氏だぞ！？これはもはや世界の危機だぞ！？何で己は緊張感がないんじゃあああああ！！！！」

アテム

「ルルーシュ落ち着くんだけ！」

遊星

「冷静になれルルーシュ！！ナナリーに彼氏が出来たからといって世界の危機と騒ぐほどじゃない！」

血眼になって怒鳴っているルルーシュをアテムと遊星が抑える。

ルルーシュ

「そ、そうだな。俺としたことが少し頭に血が上っていたようだ…
よし！ボッスン！合気！炎山！沖田！近藤いくぞ！！」

ルルーシュは5人の襟をつかみ猛スピードで走り始めた。

ルルーシュ

「ナナリーの彼氏を抹殺じゃあああああああ！！！！」

合気・炎山・ボッスン

「「「何でだあああああああ！！！！！！！！！！」」」

「

パラレル遊園地

獄寺

「すまねえな、待ったか？」

ナナリー

「私も今来たところですから。」

獄寺

「じゃあ行いっぜ。」

ナナリー

「はい！」

合気達は強制連行され現在木の茂みに隠れている。

ルルーシュ

「ナナリーは10分待ったんだぞこの忠犬野郎があゝゝゝ！そのお命頂戴する！！」

ルルーシュが銃を構えた。

合気・炎山・ボッスン

「「「待てやこのシスコンがあああああ！！！！」」」

そこに合気、炎山、ボッスンのツツコミボディブローが炸裂した。

炎山

「ナナリーさんは彼氏とデートしてるだけだ！邪魔をしてはダメだ！！」

ルルーシュ

「違う。俺はデートの邪魔をする気などない。唯あいつを抹殺するだけ！！」

合気

「それが邪魔してるって言うんだよこのシスコン！！」

ボッスン

「待てって、マジ止めるって！他の人に当たったら如何するんだよ！！」

ルルーシュ

「なるほど、ならばあいつに近い距離で撃てばいいのだな？」

合気・ボッスン

「「違いーよ！！」」

ルルーシュ

「いいか、考えてみる。あいつは殺し屋で常にダイナマイト持っていてすぐに他の人間に吠え掛る犬のようでツナだけには媚びる。他にもウンタラカンタラ」

そしてドヤ顔で言った。

ルルーシュ

「そんなやつに俺の大事な妹を渡すわけには行かない！それにあんな義弟なんて俺はいらないぞナナリイイイイ！！」

ボッスン

「結局最後の私情じゃねえか！！」

????

「五月蠅いぞお前ら！」

見ると近藤が銃を構えサングラスをしていた。

炎山

「近藤さん？聞きたいんですが…」

近藤↓ゴリラ13

「近藤？誰だそれは？俺は殺し屋ゴリラ13だ！」

合気

「お前もかあああああ！！！ああ、行っちゃった…」

炎山

「止めるぞ合気！ボッスンさん！」

ボッスン

「ああ！」

合気

「沖田さんも一緒に…ってあれ？」

合気が見ると沖田はサングラスに銃を構えていた。

合気

「沖田さん、まさかアンタまで…」

沖田

「沖田さん？誰だそれは？俺は殺し屋総悟13と呼べ。」

合気

「アンタもかあああああ！?!?!?」

沖田

「面白そうなんで行って来らあ。」

合気

「おいしいい！！まさかの最悪トリオで抹殺に行っちゃったよ！？
どうすんだよあれ!？」

ボッスン

「とりあえず追いかけるぜ！子供3枚で！」

ボッスは券を買い合気と炎山に渡した。

合気

「なんかすげえ格好つかねえ……」

炎山

「現実とはこんなものだ。」

4幕 遊園地は来たら遊んで遊んで遊びつくせ！

まず彼らが最初に選び乗ったのはメリーゴーランドだった。

ルルーシュ、近藤、沖田はそのすぐ後ろの木馬に乗った。

近藤・沖田

「誰が近藤（沖田）だ？」

ジャキツ！

すみませんしたああああああ！

ルルーシュ、殺し屋ゴリラ13、総悟13はそのすぐ後ろの木馬に乗った。

ルルーシュ

「くっ、やつめ中々馬を操るのがうまいじゃねえか。」

合気

「操るって言うかこれプログラムに沿って動いてるだけなんだけど……（呆）」

すぐ後ろに炎山、ボッスンとともに乗っている合気は言う。

殺し屋ゴリラ13

「もっと速く走れこの駄目馬が！」

炎山

「いやいや、台車ごと動いてるのだから永遠に追いつけるわけないでしょう。というか永遠に追いつくな!!」

殺し屋総悟13

「くっ…中々狙いが定まらねえからか気持ち悪く…ウップ」

ボッスン

「ここで吐くなよ!? 吐いちゃ駄目だからな!？」

とうとうメリーゴーランドが止まり彼らは次の乗り物へと足を向けた。

ジェットコースター♪（ドラ●もんっぽく）

炎山

「くっ、これは銀魂本編の展開とほぼ同じ…!!」

合気

「炎山、メタ発言をしたら駄目だ。」

ボッスン

「とにかく乗ろうぜ!ジェットコースターなんて久しぶりだぜー!」

炎山

「ボッスンさんはほとんど楽しんでますよね!？」

ボッスン

「いやいや、これでもいつでもパチンコを打ってあいつらを気絶させる準備をやっていますよ?」

合氣・炎山

「「ならとつととやねよ!？」」

ボツスン

「了解！って……」

合気・炎山・ボツスン・ルルーシュ・殺し屋ゴリラ13・殺し屋総悟13

[illegible]

ボッスンがパチンコを3人の首に向けて打とうすると運悪くジェットコースターが動き出してしまった。

もちろん乗っていた者全員がいきなりのこと悲鳴をあげる。

合氣

「ああ、死ぬかと思った。」

炎山

ボツスン

「何だろ？目から汗が出てきた…」

合氣

「スマン、でも無理なんだ。」

炎山

「右に同じく。」

ドッカアアアアアアアアン!!!!!!!!!!

合気・炎山・ボッスン

「……」

彼らが空を見ると黒コゲのルルーシュ、殺し屋ゴリラ13、総悟13がお星様になった。

合氣

「大丈夫だったんだな……」

炎山

「ああ。」

ボツスン

「これから遊園地を楽しもうぜ。折角来たんだから。」

合気

「そうだなー今日は授業サボって楽しもうぜ。」

炎山

「サボりなんて初めてだ。」

合気

「たまにはいいだろう？何乗る？」

炎山

「コーヒークップに乗れるものがあると聞いたんだが…」

ボッスン

「ああ、あれか！皆で乗って最高速度出そうぜ！」

合気・炎山

「「はい！」」

今日もパラレル学園の生徒の日常は平和である。

五幕 学園祭をナめてたら痛い目に合う

銀八

「てめえら、ついにこの時がやって来やがったぜ…」

全員

「『ゴクリ』『』」

アイチ

（銀八先生が何時にも無く真面目な顔を…!!?）

權

（一体何が始まるうとしているんだ!?!）

ボッスン

（何かとんでもない分陰気か!!）

銀八

「転校生はまだ知らねえだろうな。それは!」

アイチ・權・ボッスン

「『それは!』『』『』」

銀八

「それは、学園祭じゃあああああ!!!!」

全員

「『来たあああああ!!!!』『』『』」

權

「何で学園祭でシリアスになるわけ？」

友樹

「權君、君はわかってない。」

合気

「パラルレル学園の学園祭は毎年必ず大怪我人が出るこの学園最凶のイベント！！」

アイチ

「大怪我人が出るの！？」

明久

「パラルレル学園の学園祭は出し物にも危険ランクがつけられるほどの超危険イベント！！」

權

「出し物にまで危険ランクが！？」

バシン

「パラルレル学園の学園祭は生きて帰れた奴は奇跡といわれるほどの超危険イベント！！」

ボッスン

「生きてって死んじゃうの！？」

彼らの尋常じゃない分陰気に圧倒される転校生組。

リンク

「だから皆この学園祭を恐れているわけだよ。」

アイチ・權・ボッスン

（（ツッコミが僕（俺）達しかない…！！）（））

アイチ

（す、全てのツッコミキャラをボケキャラに変えてしまっ…）

權

（これがパラレル学園の学園祭…！！）

ボッスン

（侮ったら痛い目見そうだ…）

転校生組が唾を飲み込む。

銀八

「さらにこの学園祭の見所はランダムで出し物が決められること！危険ランク上位の出し物をやることになったクラスは危険度を抑えるために必死で努力することになる！俺が引いた出し物は…」

出し物とは全員が聞く。

銀八

「カレー屋だあああ…！！」

全員

（（（か、カレー屋だとおおお！？！？）（））

転校生組を除く全ての生徒に稲妻が走った。

銀河

「お、終わった…」

キヨウヤ

「一番当たって欲しくなかった出し物が当たってしまったとは…」

神楽

「私達全員行き倒れアルな。」

土方

「俺、腹痛くなってきた…」

全員が机に突っ伏し絶望感に浸っている。

アイチ

「あの、カレー屋って…」

遊星

「カレー屋は危険ランク？10に入る出し物だ。どれだけ辛いカレーを作るかがくじで決められているのでくじを引く。そして一番辛くないのでも唐辛子20個分の辛さだ。」

櫛

「それもうカレーじゃねえじゃんか！！！」

遊星

「しかも全校生徒はそれぞれの出し物を1回ずつ回らなくてはならないのでこのカレー屋はお客様に出すものを味見しないわけにもいかない。だから味見を必ず自分達がしなければならんだ。」

ボッスン

「そんな辛いのを一口だけでも味見ってどんだけ!？」

炎山

「まあ熱斗なら喜んで食いそうだけだな。」

熱斗

「無理無理!さすがそんな激辛カレーは無理だって!?!つか炎山はどんな目で俺を見てるの!？」

合気・炎山

「「カレー食機。」」

ロックマン

「もはや人間じゃなくなってる…(呆)」

銀八

「てなわけでてめえら、心してかかりやがれ!!!」

全員

「「「おおーう!!!」」」

炎山

「おー。」

アイチ

「(よかった、炎山君はまともだ!)お、おおー!」

權

「（それにこっちはカレー食機と呼ばれる熱斗がいるぜ！）おー！
ー！ー！」

ボッスン

「（幸い、俺達はカレーを食せずにすむかもしれない！）おー！
ー！ー！」

こうして恐怖の学園祭は始まった！

コラボ編・願いが希望に変わるとき プロローグ 買出しとかは人に任せる前に

ロックマンエグゼの願いが希望に変わるときの作者。

フレーム・ナイト様とのコラボです。

フレーム・ナイト様の書いたものを僕が載せていきます。

コラボ編・願いが希望に変わるとき プロローグ 買出しとかは人に任せる前に

銀八

「お〜い！ お前らちょっといいか〜！！」

出席簿を持った手を振りながら、銀八が合気・炎山・アイチ・權・熱斗を呼ぶ。

合気

「どうしたんすか？ 先生？」

合気が代表して聞く。

銀八

「お前ら、今から文化祭で出すカレーの材料を買いに行つて来い！」

權

「命令口調！？」

熱斗

「カレー！ 行く！ 俺七回行く〜！！」

權が突っ込み、熱斗はハイ！と手を上げて立候補する。

炎山

「・・・どこにですか？」

炎山が『また面倒ごとを・・・』という顔で、行き先を聞く。

銀八

「パラレル学園発 『忍タマ乱太郎 忍術学園全員出動の段!』 行き、次元列車だ。」

全員

「『『『どこそこー!ー!ー!ー!』』』」

熱斗達が間髪入れずに銀八に突っ込む。

アイチ

「なんで忍タマの新作映画の中に出しに行かなくちゃ行けないんですか!?!?」

權

「ていうかそこにカレーあるの!?!?」

アイチと權が叫んで突っ込む。

銀八

「何言つてんだ、忍タマにカレーが出てきたシーンあったろう? っていうか普通にハンバーグとかも出てきてたし……。そこが駄目なら『塔の上のラプンツェル』にでも……。」

合気

「いやだから何!? そのチェイス!?!?」

銀八

「だーもー、うるせえ!! とにかく行ってこーい!?!!」

と、何故か駅のホームに切り替わっている場面で、銀八は合気達を

次元列車の中に蹴りで吹っ飛ばす。

全員

「「「「わー！ー！！覚えてろー！ー！！」」」」

銀八

「はい、はい、忘れます。」

銀八はそういうと列車のドアに背を向けた。 しかし・・・

神楽

「銀ちゃん何やってるの？」

神楽が銀八の肩に手を添えた。

銀八

「神楽、いや別に、あいつらに買出し行かせて、俺はジャンプ買いに行くの。」

神楽

「ならお前も行けよ！！」

銀八

「ゴバびば！！」

神楽の回転横蹴りが銀八に炸裂し、閉まる直前の列車の中に飛び込んだ。

神楽

「いつてらしゃ〜〜い」

銀八・合気・炎山・アイチ・櫛・熱斗を乗せた次元列車に向かって、
神楽は手を振った。

合気

「で、結局先生も行くんですか？」

合気が銀八にニヤニヤ笑いながら話しかける。

銀八

「クツ！　なんでこんなことに・・・！？　本当なら今頃ジャンプ
買ってゴロゴロしている筈が・・・！！」

櫛

「それ、先生としてどうよ？」

アイチ

「アハハ・・・」

櫛の突っ込みにアイチが苦笑いをする。

熱斗

「にしても、やけにすいてるなこの列車、乗客俺達だけだぜ？」

熱斗が列車を見渡しながら言う。

確かに、列車の中はがら空きで、乗客は合気達しかない。

熱斗

「もしかして乗る列車間違えたとか？」

炎山

「いやそんなまさか……。」

熱斗の考えを炎山が否定しようとする。しかし……その言葉は途中で詰まり、銀八を見る。

銀八

「何？ まさか俺が間違えてお前らを蹴っ飛ばして乗せたとしても？ ふざちゃダメだよ？ いくらなんでも・・・」

ピンポンパンぽん！！ パラレル学園発 ロックマンエグゼ ♪
願いが希望に変わるとき 行き・・・・・・・・

全員

「「「「「
「やっぱりかあああああ
「あ！！！！」
「「「「「

銀八

「マジイイイイイイ！?!?!?」

絶叫するアホ六人組を乗せて、次元列車は『願いが希望に変わる』とき』へと走る……。

六幕 女装コンテストとかは学園祭によくある　そして大体裏のほうはカオスな

コラボ本編はフレイム・ナイト様の所でやります。

てなわけで学園祭編スタート！

銀八

「いやいや、OKだろ？よく見てみい？だいたいのアニメのキャラの主人公の男って女顔じゃん。女装してもちゃんと似合うようになってるだろ？化粧とかでそれを誤魔化しているけど。」

權

「黙れやこの変態教師がああああ！！」

權が赤い本の文字を読むとドラゴニック・オーバーロードが火を噴いた。

銀八

「ギヤアアアア！！」

合気

「自業自得だ。」

何やかんやで学園祭は始まった。

そして…

アイチ・熱斗・銀河

「「「い、いらっしやいませー…」」」

むっっちゃ引きつった笑顔を浮かべてアイチ達は嫌々、嫌々接客していた。

それが功を奏したのかはわからないが客がドンドン行列を作る。

ただし女性客のみ。男性客はアイチに引き寄せられたのか写真を帰りに撮っていく。

外は上々だった。ただし厨房では混沌だった。

炎山

「バトルチップ、スロットイン！ソード！」

炎山がブルースにバトルチップ、ソードを着用させ野菜を切っていた。

そこまではよかった。そこまでは！

ボツスン

「よし、できたぞ唐辛子20個分カレー。」

ボッスンがゴーグルとマスクをつけて振り向く。かなりの重装備だ。

沖田

「なら味見しなくちゃいけませんねえ」

沖田はそう言うとボツスの顔を鍋の中に突っ込んだ。

ボツスン

? ! ?
「 % # # % D C V V # # \$ & a m p ;) F K K ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? !

声にならない悲鳴を上げてボツスは気絶してしまった。

全員

((マジ鬼畜...))

全員がそう思った瞬間だった。

合気

「できたぞー。」

合気が運んできたカレーはマジ甘ったるかった。

友樹

「な、何入れたの!？」

友樹がキラから水を貰って飲み干し聞く。

合気

「チョコにクリームに溶かした飴に果物にポッキーにクッキーにe
tc...」

アスラン

「お前、カレーにどんな恨みがあるんだ...」

合気

「特に。ただ辛いんだったら甘くしようと...」

雄二

「甘すぎだろうが!!! どんだけ入れたんだ!？」

合気

「聞きたい?」

雄二

「遠慮しておく。」

雄二は即断った。

大変な量になりそうだったからだ。

バシン・ダン

「出来た！龍皇ジークヴルムのカレーだ！！」

そこには紫色の何かがあった。

ヨハン

「何入れたああああ！？！？こんなの食えるか！即吐くに決まってるだろうが！！」

バシン

「先せー。これ出すからな」

ダン

「これ持っててくれ」

ヨハンのツツコミをいとも簡単にスルーする2代主人公。

ヨハン

「人の話を聞けよ！！」

遊戯

「炎山君。」

炎山

「はい？」

アテム

「何と言うか、カオスだぜ。」

炎山

「そうですね……」

炎山は外に一瞬お花畑が見えたとか……（笑）

七幕 メンドクサイのは一番最初にやったほうが後は楽

銀八

「てめえら休憩時間だぞー。」

銀八の言葉で大半の生徒がワイー！と歓声を上げた。

熱斗

「ロッキマン、炎山、ブルース、合気。これからどうやって生き残るかを考えよう。」

ロッキマン・炎山・ブルース・合気

「了解！」「」

熱斗はランク一覧表を広げた。

炎山

「ここはやはり一番危険ランクが低いメイド喫茶から徐々に慣れていったらどうだ？」

合気

「いいや、辛いのを先に経験しておいたほうが後々楽になるだろうし……」

合気・炎山

「どうしよう……」

頭を抱えた2人を見かねた熱斗の意見でメイド喫茶から徐々に慣れていくという戦法をエグゼチームは取った。

ここはヴァンガ&ガンダムSEEDチーム。

キラ

「合気達はメイド喫茶から周っていくらしいよ。」

アスラン

「俺達もどこから周るか決めるか。」

櫛

「生き残るためにも慎重にな！」

アイチ

「僕も命は惜しいしね。」

全員に緊張が走る。

櫛

「……………何でアイチはメイド服のまんまなんだ？」

櫛の言葉に他の2人の視線がアイチに行った。

アイチ

「仕方ないじゃないか！銀八先生が宣伝して来いって言うんだから！！！！」

櫛

「わかったぜアイチ。銀八のセンサー殺って来るから。」

アイチ

「ま、待って櫛君！殺るのはダメって…行っちゃった…」

アイチは呆然とし櫛のいたほうを見る。

アスラン

「……さて、じゃあ俺達もメイド喫茶から周るか。」

キラ

「そうだね。」

アイチ

「2人とも僕のことスルー！？」

ヴァンガ&ガンダムSEEDチームは同じくメイド喫茶から周るらしい。

次の瞬間、銀八先生の悲鳴が聞こえ、ドラゴニック・オーバーロードの横で赤い本を持った櫛が目撃されたがそれはまた、別の話…

そしてこちらはベイブロン＆バカテスチーム。

雄二

「さて、俺達はどうしようか？」

ツナ

「ここは1つの出し物につき1人がチャレンジするというのはどうでしょうか？」

雄一以外全員

「
「
「
あ、
それ
いい
な。
」
」
」

キョウヤ

「というか銀河は脱いだんだなメイド服。」

銀河

「あんなの着てられるかっての！」

明久

「キョウヤは銀河のメイド服姿が見たかったんだね。ってそっちの関節はそっちには曲がらないってアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！」

島田

「自業自得ね。じゃあ一番、危険なランクのお化け屋敷から行くか。」

ツナ

「じゃあ最初の生贄はチャレンジャーはどうやって決めましょうか？」

雄二

「今、生贄って書いてチャレンジャーって読んだよな!？」

獄寺

「民主主義に習って多数決でどうでしょうか十代目!」

雄二

「無視か!？俺のことは無視か!？」

ツナ

「俺はそれで異議なしだけど」

銀河

「俺もー」

キョウヤ

「ああ、それでいい。」

島田

「うちもー」

明久

「僕もー」

七幕 メンドクサイのは一番最初にやったほうが後は楽（後書き）

次回…皆が皆、それぞれの場所に行っているとき、謎の影が学園祭に忍び込む！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4366v/>

憂鬱な学園生活～合気のドタバタ学園生活～

2011年10月26日16時02分発行